

感染症の一覧表

いずれの感染症もお医者さんに確認してもらうポイントは2つです。
 感染力が低下し、もう他の園児への感染の恐れがほとんどなくなっているか
 子どもの体力が回復し、保育所での集団生活に支障が無いが

保存版

橋本保育所

下記の感染症は意見書が必要となりますので、HPから用紙を印刷していただくか、保育所に用紙がありますので、お医者さんで記入してもらって必ず提出して下さい。

病名	主な症状	家庭で気をつけること	登所のめやす(基準)	潜伏期間	予防接種
インフルエンザ	高熱(39~40℃) 関節や筋肉の痛み 全身倦怠感、咳、鼻水、のどの痛み	安静、保温、水分補給に注意し、消化の良い物を与える。	発熱後5日間及び解熱後3日を経過するまで	2~4日	有
百日咳	吹笛様吸気で終わる特有な連続性・発作性の咳(レプリーゼ)が長期にわたって続く	激しい運動、急激な気温の変化を避ける。3歳以下の乳幼児は肺炎を合併することがある。	特有な咳が消失し、全身状態が良好であること	1~2週間	有
麻疹(はしか)	発熱、くしゃみ、鼻水、頬粘膜にコプリック斑ができる 再発熱の時発疹が生じる	安静、保湿、水分の補給に注意し、消化のよい物を与える。	発熱が解熱した後3日を経過するまで	9~12日	有
風疹(三日ばしか)	特有の発疹、発熱、リンパ節腫脹と圧痛	安静、保湿、水分の補給に注意し、消化のよい物を与える。	発疹が消失するまで	2~3週間	有
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	発熱、最初は片側、ついで両側のあごの後ろがはれて痛む	嘔吐と痛くなるため、食事は消化の良い軟らかい物にする。	耳下腺の腫脹が消失するまで	2~3週間	有
水痘(みずぼうそう)	発疹は紅斑、水疱、膿疱、痂皮の順に変化する	局所の痒みに対し手指でかかないようにし、爪を短く切っておく。	すべての発疹が痂皮化するまで	2~3週間	有
带状疱疹(ヘルペス)	小水疱が肋間神経にそった形で片側性に現れる。	局所の痒みに対し手指でかかないようにし、爪を短く切っておく。	すべての発疹が痂皮化するまで	不定	有
結核	初期には無症状である、発熱、喀痰、全身倦怠感、食欲不振、顔色が悪いなどの症状	医師の指示に従う。	医師により感染のおそれなくなったと認められるまで	発病時期は様々	有
咽頭結膜熱(プール熱)(アデノウイルス)	39~40℃の発熱、結膜炎、咽頭痛	手洗い、うがい、水泳前後のシャワーの励行	主要症状が消退した後2日を経過するまで	5~7日	×
腸管出血性大腸菌感染症(O-157等)	全く症状のないものから軽い腹痛や下痢のみで終わるもの、さらには頻回の水様便、血便、激しい腹痛	約6~7%に溶血性尿毒症症候群(HUS)、脳症などが発症する。	症状が治まり、かつ抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの	4~8日	×
流行性角結膜炎(はやり目)	眼瞼腫脹、異物感、眼脂があり、偽膜を伴うことも多い プール施設内で感染することが多い	タオル、洗面器具を個人別にする。目を触ったときは、手をよく洗い清潔にする。 医師の許可があるまで、プールに入らない。	感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから	4~10日	×
急性出血性結膜炎(アポロ病)	眼瞼腫脹、異物感、眼脂の他、結膜下出血がある			1~2日	×
ウイルス性肝炎	発熱、嘔吐、熱が下がった後の黄疸	手洗い等の一般的な予防方法の励行が大切である。	医師により感染のおそれなくなったと認められるまで	4~7週	×
溶連菌感染症	発熱、咽頭の腫脹、疼痛、扁桃の腫脹、化膿など、咽頭炎、扁桃炎の症状が主である 莓舌と発疹	安静、保湿、水分の補給に注意し、消化のよい食べ物を与える。	抗菌薬内服後、24~48時間経過し、全身状態が良好であること	2~5日	×
伝染性紅斑(リンゴ病)	両頬に少し盛り上がった蕁麻疹様の発疹、発熱	症状が出ている間は、激しい運動は避ける。	全身状態が良好であること	17~18日	×
手足口病	軽い発熱(2~3日) 小さい水泡が口の中、手足にできる	口内痛を刺激しない軟らかい消化の良い食べ物にする。	発熱や口腔内の水疱、潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること	3~6日	×
ヘルパンギーナ	39℃前後の発熱 のどに小さな水泡ができ痛む	口内痛のため、刺激の少ない消化の良い食べ物を与える。		2~7日	×
マイコプラズマ感染症(異型肺炎)	発熱、激しい咳	安静、保湿、水分の補給に注意し、消化のよい食べ物を与える。	発熱や激しい咳がなく、全身状態が良好であること	2~3週	×
RSウイルス感染症	発熱、くしゃみ、鼻水などの風邪症状から次第に咳、ゼイゼイという呼吸などの症状が出る	安静、保温、水分補給に注意し、消化の良い食べ物を与える。	重篤な呼吸器症状が消失し、全身状態が良好であること	2~8日	×
流行性嘔吐下痢症(感染性胃腸炎)(ノロウイルス)	下痢、腹痛、嘔吐、発熱	感染力が強いため、便や嘔吐物を触った時は手をよく洗う。水分補給を十分にする。感染予防の為、便や嘔吐物はすぐに手袋などを使用して処理すること。 ロタウイルスは寒い時期に多く、3歳位までの乳幼児にかかりやすく、嘔吐白色調の下痢、時に高熱を伴う。他に、ノロウイルス	嘔吐、下痢などの症状が治まり、普段の食事ができ、また全身状態が良好であること	1~3日	×

通常出席停止の措置は必要ないと考えられる感染症の例。症状がひどい場合は受診しお医者さんに登所可能か確認してください。

伝染性膿痂疹(とびひ)	顔や手に米粒から小豆大の水疱ができ、破れて膿が出る かゆみ	早めの受診、治療が必要。患部の接触を防ぐ。広範囲に発症しガーゼで覆えない場合は、感染の可能性があるので、必ず医師と相談しその指示に従う。医師の許可があるまで、プールに入らない。	皮膚が乾燥しているか、湿潤部位が被覆できる程度のものであること。 また症状に応じて医師が伝染のおそれがないと認められるまで。	2~10日	×
伝染性軟疣(属)腫(水いぼ)	2~5mm 大の光沢を帯びたイボで、大きいものは真ん中に中心臍を有する	他児と接触することにより感染するので、医師の診察を受ける。化膿したり、悪化していなければプールの入水可能。			×
アタマジラミ	頭皮の湿疹や、激しいかゆみ	少数の場合は卵を探して取り除く。シラミ駆除剤(専用シャンプー)が有効。早期発見と早期治療が重要である。			×

第一種の伝染病：エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、重症性呼吸器症候群、痘そう、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、指定感染症、鳥インフルエンザ、新感染症についても、「入院、治療するまで」と規定されています。